

毎日歌壇

加藤 治郎 選

水原 紫苑 選

伊藤 一彦 選

米川千嘉子 選

親・子・孫との未来へいくのだからバームクーヘンかじりながら 仙台市 石川 初子
 △評▽親・子・孫の3世代の歳月がバームクーヘンの層を思わせる。しかし未来は別々かもしれない。我々はどこへ行くのか。いつからか貨物列車に乗っていたグリーン券を握ったままで 横浜市 砂月 七

△評▽グリーン券があるのに貨物の扱いを受けている。不当な現状に気づいたのだ。米を研ぐそこに私がいるようにそれが私であるかのように 枚方市 坊 真由美

いまなにか光ったような 私から返せるものはないというのに 名古屋市 岩塚 光希

未来にも過去にも続くこの道はひろい宇宙に たったひとつで 四万十市 佐竹 紫円

ずっとずっと話を話してはかわからない 黙りこくって海をみる 横浜市 大原 香花

乱暴に脱いだ下着を整えてもっと前からやり直さなきゃ 豊田市 外川 菊絵

国道の渋滞のさきゆっくりと帰省してゆくとリケラトプス 浜松市 尾内甲太郎

晴雨兼用男女兼用昼夜兼用公私混同で休む暇なし 長岡市 三月 とあ

三度投げ三度右へとそれてゆく紙ヒコキ 所沢市 里見 脩一

こんなにも寂しいことはないでしょうタイムマシンを送り出すとき 長岡市 三月 とあ
 △評▽タイムマシンをどこへ送り出すのだろう。あなたはタイムマシンの恋人か、それとも親か。

あなたいま詩集を燃してゐるでせうかくも理性をさびしくさせて 名古屋市 岩塚 光希
 △評▽心の中で詩集が燃える音と匂いをさびしい理性は知っているだろうか。

雪の降る予感の朝を歩くととき戴冠式のような静けさ 京都市 よだ か

水に映るさくらと雲なら なんだ君を抱えているじゃないか 地獄を 雲南市 熱田 俊月

学校へ渡す感情調査票 名のない感情はくもくれんと書く 浜松市 尾内甲太郎

命という命ふくらむ三月に乙女橋の美しき身投げよ 千葉市 芍 葉

欲望の孤城のごときスズメバチの巣が揺れている廃墟の屋根に 吹田市 舟橋 いま

クロノンの技術は江戸の時代からソメイヨシノを先駆者として 倉敷市 中路 修平

テーブルのボールペンからワインまで確かにひどく怯えていたよ 岡山市 松井 度

正しさの基準は家族でも割れて固焼き煎餅音を立てて食む 取手市 奥山いずみ
 △評▽固焼き煎餅の固さの正しい基準とは。縁語の「割れて」が生きて面白い。皆を満足させる「正しさ」はあるのかと問う。

別氏では揺らぐ絆の夫婦だと自覚するのと同じ氏派議員 京都市 寺西 和史
 △評▽いま議論されている夫婦別姓、夫婦別氏。反対する同氏派議員を痛烈に皮肉る。

線路詰め鉄分補給する鹿のように順応したい新部署 富士見市 松本 尚樹

改札を抜けた人たちが走って手綱引かれた馬じゃないのに 川崎市 水 面

地球のようなプロロコリーを茹でている創世主になった気分 清瀬市 百瀬菜美子

寄付できるお金を持ってないこというしるめたさがある 募金箱 雲南市 熱田 俊月

今までは青色だったトーク画面ピンクになって変わるLevric 国分寺市 横林なな子

わたしたち気づかれないで風にのる週末の海ほのかにピンク 横浜市 大原 香花

コザという町の隅にて産声をあげたロックが今なお響く 東京 中山 琉貴

図書館がひとつふたつとなくなつてはら帝国へ近づいてゆく 吹田市 舟橋 いま
 △評▽財政難では文化教養に関わる予算から削られがち。それが何に回されるのか。

「図書館」と「帝国」の対照が鋭い。手のひらを全開にして昼食べたまいたけ天の解説をする 長岡市 三月 とあ

△評▽手のひらの大のマイタケの天ぶら。「全開」の一語もユーモラスで楽しい。

向拝の天井の絵にモンローもあり変はりゆく四国霊場 瑞穂市 渡部 芳郎

「がんばってわれに言うこと多くして」だいじょうぶとは人への言葉 香取市 嶋田 武夫

牛乳の賞味期限の迫るゆえンチューを作る 鎌に見られ 坂戸市 納谷香代子

消費期限近いものより食べてます。かなしみにも消費期限が欲しい 横浜市 大建雄志郎

認知症軽きとう人とランチせり吾を分らずはかなく愛し 幸手市 中村 早苗

裸で舞う「素舞い」の謂の「相撲」には神事の名残りなる「八卦よい」 甲府市 高瀬 孝人

きみとわれ煉瓦造りの茶房にて珈琲の香にペーシめくらる 小平市 真鍋 真悟

振り向けば大方のこと些事ならむ手づくりプリンに懸が立つてゐる 岡山市 平尾三枝子

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051（住所不要）毎日新聞芸芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます